

播州赤穂コース 兵庫 No.22

J O A 公認 No.633 10km 8ポスト

兵庫県の最西端、岡山県との境にある赤穂市に「播州赤穂」コースは設置されています。言うまでも無く、「赤穂浪士」の里として名高いところ。市街地には義士にまつわる史跡が多く点在しています。

コースはその背後にそびえる「雄鷹台山」を巡ります。広々とした防火帯を歩く異色のコースで、果てしない開放感に包まれながら OL が楽しめます。

スタート地点は JR 赤穂線「播州赤穂」駅前。マップは駅前「赤穂観光案内所（07914-2-2602）」で扱っています。比較的最近改訂された O-MAP で、コース図は印刷済です。そのせいか、スタート地点を示す案内板は撤去されています。

さて、第1ポスト。JRの線路を渡り、これから登る山々を正面にして進みます。街中にある公園に到達すると、何の遮蔽物もないその一角に立つポストが簡単に目に入ります。開設以来そこに立ち続けているポストで、ややくたびれた感が漂っています。

水路に沿って北西に向かうと、山へ続く道路に到達。北に方向を転じて、少しずつ登り始めます。第2ポストはそんな道端に立っていますが、第1ポストとは違って、真新しいピカピカのポストです。ただ、このポスト、平板を貼り合わせただけのもので、規格の型とは趣が違います。初代のポストも足元に転がっていましたが、その役目を終えていることが一目瞭然の状態です。

更に高度を上げていきます。ヘアピンカーブを過ぎ、西に向かうと第4ポストへ通じるルートとの三叉路に出ます。ここを更に西に向かうと程なく第3ポストを発見。ここも更新されたポストで、従来のポストも同様に転がっています。

第4ポストへの道のりが最も顎のあがる区間です。上り坂に体が馴染んでいない頃で、一汗出るまでは体が重たく感じるでしょう。ポストは分岐の陰といったところ。古錆びたポストの横に新しいポストが立っています。

いよいよここからがこのコースのハイライト。東に向かって500m余り進むと、ここが山の上かと思えるほど広々とした防火帯が目前に開けます。蜘蛛の巣や藪を払いながら進む OL コースとは正に別格。清々しい思いで進んで行くと、道端の「岩屋寺跡」に第5ポストがあります。ここは古いポストの支柱に平板が2枚は貼り合わされ、手直しされています。

第6ポストへもこの防火帯を進みます。適度な起伏もあり、足の鍛錬にも最適。すっかりその雰囲気を楽しんだ頃に分岐があり、右手に折れて、鞍部へと急降下。この辺りでは防火帯も狭まり、周囲も林に覆われるようになります。鞍部に到達すると、ポストも同時に発見できるでしょう。

リバウンドするように今度は急坂を登ります。西に折れると「雄鷹台山」がもう目の前。ここで防火帯は終わり、見慣れた小道へとルートは変化します。送電線との交点にポストはあるのですが、奥に入っており、発見するには一苦労。諦めずに探し出してください。これまでの平板ポストとは違って、開設当初の古いポストです。

最終ポストへは一気の下り。山の麓にある神社を目指

して尾根筋をぐんぐん下って行きます。神社に着いて一安心したいところですが、おそらく直ぐにはポストは見付からないでしょう。ちょっと奥にあるポスト、じっくり探してみてください。ここからゴールはすぐです。

私は約2時間で終了しました。史跡めぐりと組み合わせると、丸1日赤穂を楽しむことが出来るでしょう。大阪から直通の新快速もあり、気軽に訪れることができます。ストレスが一瞬にして吹き飛んでしまいそうな快適なコースです。

(1999年11月14日 踏破)

三二情報

宇倍野山 (鳥取 No.3)

昭和59年に北側がカットされたコースとなりましたが、現在は野放し状態です。2年前に国府町教育委員会からマップを入手しましたが、現在ではそれも出来ません。の3つのポストは不明でした。

は開設当初のポストがそのまま使われているため、老朽化が進んでいます。

鹿野城跡 (鳥取 No.6)

廃止扱いとなって久しいコースです。調査のために赴いたところ、スタート地点の「山紫苑」にマップは残っていませんでしたが、案内板はそのままでした。コピーマップで回ってみましたが、

の6ポストは辛うじて残っていました。2年前の調査で確認できた は、今回撤去されていました。

馬ノ山 (鳥取 No.5)

ハワイビーチがスタート地点という異色のコースでしたが、既にポストは撤去されており、使用することは出来ません。ルート自体は今もそのまま歩けます。再設置が望まれるコースです。

稗原 (鳥根 No.9)

訪れたときはマップ取扱所の「稗原農協支所」「西尾商店」共、休みのためコピーで歩きました。やや小型のポストが設置されていますが、の2箇所は欠損しています。コース自体はルートチョイスが楽しめ、適度な緊張感を持って回ることが出来ます。是非整備してもらいたいコースの1つです。

原・七塚原 (広島 No.20)

七塚原高原に設置された雰囲気満点のコースです。大学のキャンパスや閑静な森林、牧歌的な高原地帯を巡ります。現在、が撤去されていますが、今も十分利用可能です。